

「イチコレ」における 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン

1、基本的な考え方

「イチコレ」は一般市民が「市民モデル」として参加する企画であり、観客も伴います。そのため、感染拡大予防対策を大きく3つに分けて考えていきます。

- ① 主催者としての対策
- ② 参加者(市民モデル)における対策
- ③ 観覧者に要請する対策協力

いずれの対策においても、自己への感染を回避することはもちろんですが、他人に感染させないようにすることも重要です。いわゆる「3密の回避」を大原則としながら、具体的な対策を以下に示していきます。

2、具体的な感染予防対策

上記で示した通り、3つの主体それぞれにおける感染対策法を整理します。

① 主催者としての対策

A 会場レイアウト

- ・ 3密（密閉空間、密集場所、密接場面）を避けるため、会場となる「れいな de ふろーれす」内の「レストラン」および控室として利用する「加工体験室」では、適正な対人距離が確保できるようなブース配置を検討、実施する。
- ・ 市民モデル控室や観覧者における本状況下での最大収容人数を設定し、サイン表示するとともに、入場制限の仕組みをつくり、収容人数を適正に管理する。

B 緊急連絡先の把握と名簿の作成

- ・ 市民モデル、ボランティアスタッフ、審査員、および、観覧者全員の氏名・緊急連絡先を把握し、名簿を作成する(事前申告制)。

C 保健所等の公的機関との連絡体制の構築

- ・ 保健所等には事前に本ガイドラインを提出し、必要に応じて指導をいただく。
- ・ イベント終了後にはBの名簿を提出し、感染の疑いのある人が発生した場合の速やかな連携が図れるように努める。

D 観覧者の把握および制限

- ・ 観覧者は参加者（市民モデル）の関係者（1組につき2名まで）のみに制限することで会場内の人数を減らし、対人距離の確保につなげる。
- ・ 観覧者の情報は事前申告制とし、受付時に申告されている人物と相違がないか確認し、招待券と引き換えに会場への入場を許可する。
- ・ 控室も含め、原則として事前に申告のない人の会場への立ち入りは禁止する。

E 関係者全員の検温の実施とマスク着用確認

- ・ 受付時に検温を実施し、37.5以上の発熱または平熱比1度超過が見られた場合、入場および参加を見合わせていただく。
- ・ 同じく受付時に全員のマスク着用を確認し、本番含め、控室等でもマスクを取り外さないよう

注意喚起する。万が一マスク不携帯の人にはマスクを配布し、マスク着用を拒否した人の入場は許可しない。

- ・会場内では主催者側スタッフが適宜見回りを行い、マスク着用のアナウンスを続ける。なお、熱中症対策としてマスクを一時的には外すことは認めるが、他世帯員との距離が2 m以上確保できる場合のみとする。

F 手指消毒の設置と徹底

- ・会場入口や控室等に手指消毒用の消毒液を設置し、こまめな手指消毒を促す。
- ・スタッフ（ボランティアスタッフ含む）には携帯式の手指消毒液を配布し、接客や作業のたびに消毒を行う。
- ・手指消毒液の在庫は十分に用意し、定期的に主催者側が補充を行う。

G 搬入出時の感染予防対策の徹底

- ・開催数日前から会場の準備を始めるが、搬入時および終了後の搬出時における飛沫感染、接触感染を防ぐため、主催者側がマスク着用などの積極的な声かけを行う。
- ・搬入出時は会場内で常時開放を徹底し、共有工具や備品からの接触感染を防ぐため、手袋の着用やこまめな消毒を促す。

H 参加者・関係者への感染予防意識啓発

- ・市民モデルやボランティアスタッフ、審査員は少なくとも開催2週間前から、できれば1か月前から通常以上に他者との接触に気を付けた生活をしていただくよう周知徹底する（可能な限り「接触確認アプリ」を導入、活用していただくことを推奨）。
- ・感染予防対策を参加者間でしっかりと共有していただくよう周知徹底する。

I 差別防止の徹底

- ・万が一コロナウイルス感染者が当イベント参加者から発生した際にも、差別等が起こることのないよう、意識啓発を図るとともに、差別の起こるような状況が発生しないよう、本ガイドラインの対応徹底に努める。

② 参加者（市民モデル）における対策

A 咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指の消毒の徹底

- ・自身が感染しないことはもちろん、他者へ感染させることのないよう、上記基本的な対策を徹底する。
- ・特にマスクに関しては、ショーの本番や控室にいる際にも絶対に外さず、熱中症対策として外す際には他者のいない場所へ移動する。
- ・参加者同士の濃厚接触を避けるため、待機中も必要以上の会話等は避けるよう声かけする。

B 控室内滞在時間の制限

- ・濃厚接触を防ぐため、15分以上、控室内に同一の人が留まらないよう、交流の持ち方に工夫する。
- ・ショーの直前等、やむを得ず複数人が控室に滞在しなければいけない際には、換気をしっかりと行い、空気循環に努める。

C 控室や待機中の対人距離の確保

- ・参加者同士の距離は最低1mはあけるよう控室内でも意識していただく。
- ・1mの距離をとっていても、対面で会話をするような場面は極力避ける。

D 高頻度接触部位および共用物品の消毒

- ・鏡やテーブル、イス、更衣室などを使用する際は、その前後に消毒をしてもらうよう協力を呼びかける。
- ・消毒の難しい物を直接使用する場合、手指消毒のほかに使い捨てのビニール手袋等を着させ、感染予防を徹底する。

E ショー本番の飛沫飛散防止対策

- ・観覧者等への飛沫飛散を防止するため、ショーの本番もマスク等の着用を義務付ける。ただし、ファッションショーでもあることから、衣装に合わせたマスクと同等の機能を有した代替品でも可とする。
- ・上記マスク等を着用していても、声を発するようなパフォーマンスは禁止とする。

③ 観覧者に要請する対策協力

A 受付対応への協力

- ・必ず通過しなければいけない場所に受付を設置し、事前に申告されている人物と相違がないか確認をとる。
- ・受付時に検温を行い、37.5以上の発熱または平熱比1度超過がみられた場合には入場を自粛していただく。
- ・受付時には主催者側が用意した導線に従っていただき、行列における密を避ける。

B 咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指の消毒の徹底

- ・マスク着用義務に応じていただくほか、咳エチケット等、各種基本的な感染予防対策にも協力していただく。

C 観客席での感染予防対策への協力

- ・観客同士の接触を極力避けるため、座席は原則、入場順に奥の席から座っていただき、着席後の移動や、本番中の入退場はご遠慮いただく。
- ・座席間の距離を1mに設定しており、その距離を保持するため、イスを動かすような行為は慎んでいただく。
- ・本番中はもちろん、ショーの前後も極力会場内での会話はご遠慮いただき、飛沫感染を予防する。

以上